

書あり 師あり 友ありて



本年もどうぞよろしくお祈りします

学校長 平田 高之

新年明けましておめでとうございます。(喪中の方はすみません)

「令和」になって最初のお正月をいかにお過ごしでしたか。受験生を抱える3年生のご家庭はお正月どころではなかったかもしれませんね。また、働き方改革が叫ばれているものの、年末年始がお忙しいお仕事の方は休みなしだったかもしれません。温暖化とはいえ、節分までは寒さが激しく、インフルエンザも流行しているようですので、くれぐれもご自愛ください。

2学期の終業式では、少し時間を取り「いじめを絶対に許さない・誰もが過ごしやすい大蔵にするために」という話をしました。2学期には言葉による暴力からいじめに発展していくケースがあり、いじめについて、改めて全校生徒に考えてもらいたかったからです。パワーポイントの抜粋を掲載しますので、ご家庭でもこのことについてお話し合いをして頂ければと思います。

○たとえ**置った方**に悪気がなかったとしても、**相手を傷つける言葉により言われた方**が心や体に**苦しさや痛みを感じたものはいじめ**とみなされる

○**いじめはいじめ防止対策推進法**という**法律で禁止**されている。(2013年9月施行)

法律ができたきっかけの出来事
滋賀県大津市内の中学校で発生した出来事で、複数の同級生が2011年9月29日に体育館で男子生徒の手足を縛り、口を粘着テープで塞ぐなどの行為を行った。10月8日にも被害者宅を訪れ、自宅から現金庫や財布を盗んだ。被害者は自殺前日に自殺を仄めかすメールを加害者らに送ったが、加害者らは相手にしなかった。男子生徒は10月11日、自宅マンションから飛び降り自殺した。

加害者が「いじりです」「悪ぶだけです」「相手も笑って楽しんでいました」「一緒に遊んでいただけです」と言っても、被害者が苦しみや痛みを感じていたらいじめとみなされる。
⇒**被害者の立場を守るのが大前提!**

いじめが発生したら学校は：
○**いじめをやめさせ、いじめを受けた生徒のサポート、いじめた生徒への指導**を行う。
○**いじめ行為が重大な場合は、警察と協力**し対応する。

どの子にも、どの学級にも起こる
2018年度問題行動調査より
全国中学校：9万7704件(92万2千人)
兵庫県中学校：4369件(14万5千人)
大蔵中学校：19件(519人)
全国でいじめを苦に自殺した中高生9名⇒**命を奪いかねない犯罪行為**

今きみたちにしてほしいこと1
○**いじめで苦しんでいる人は決して悪くありません。**
○**そしてすぐに友達や周りの大人に自分の苦しみを伝えてほしい。**人間誰でも一人では生きていけないのです!

今きみたちにしてほしいこと2
○**いじめで苦しんでいる人を見て見ぬふり**をしている人はいじめている人と同じです。
○**なぜいじめは悪いことだと分かっているが止めることができない**だろうか？
○**弱い心に打ち克ち、いじめている人をすぐに止めてほしい。**それが無理でも、せめて大人に伝えてほしい。

今きみたちにしてほしいこと3
○**いじめを正当化する理由**は決してない。ただの言い訳にしかすぎない。
○**当たり前だけど、すぐにやめて謝り二度としないと約束する!**
○**いじめをやめるのは怒られるから?**
○**いじめをしている自分を誇れますか??** そんな生き方を続けるんですか???

今きみたちにしてほしいこと
○**いじめを絶対許さない**という**ことは、いじめの行為を絶対に許さない**ということ!
⇒**いじめをした人をいじめる負の連鎖**になってはいけません!

3学期の始業式では、私が座右の銘にしている「克己」を紹介しました。2学期の終業式でも少し触れたのですが、人間は誰でも弱い心を持っていて、その心との葛藤の毎日は私自身もみんなと同じで、普段から意識して行動するようになっていること。中学生は勉強や普段の生活の中でしんどいことから逃げたい心や誘惑は多いと思うけど、その弱さに打ち克つ心を自分自身の中に持ち行動してほしい。そうして、周囲から信頼や信用される人間になってほしいと話しました。

新たな年での新学期です。今までできなかったことに挑戦するきっかけにしてほしいと願っています。生徒たちに待ち受ける日本の社会や人類の未来は決して楽観視できませんが、私たち大人が夢や希望を持ち、その夢に向かっていく姿を見せることで、大人になることへの夢や希望を持って、向かっていける心を育てることができると考えています。本年もどうぞよろしくお祈りします。

73期生徒会執行部の皆さん 本当にお疲れさまでした

終業式の日には生徒集会も行われ、73期生徒会執行部が任期満了ということで、全員がそれぞれ挨拶をしました。大変なこともあったけどとてもやりがいがあったこと、執行部の仲間の絆の深さで乗り越えられたこと等。そして、全員が口にしたのは、協力してくれた全校生徒への感謝の言葉でした。勉強と部活動の両立だけでも大変な中、生徒会執行部の活動に自分の時間を割いて、大蔵中学校に貢献してくれたにもかかわらず、感謝の言葉が出るのは、まさしく、「Mastery for service」の精神、本当にすごい自慢の生徒たちです。この経験を自信にして、今後の人生に活かしてほしいと願っています。



最後のあいさつ運動

感謝力こそ上達への道

生徒会執行部の生徒たちも話してくれましたが、感謝する気持ちを忘れることなく人生を送ることは私自身も大切にしていることです。人間はついそのことを忘れ、自分一人が頑張った、自分の力で成功したと勘違いしがちです。感謝力という言葉は造語なのですが、お二人の方が同じことを仰っていましたので紹介させていただきます。

一人目は**世界的指揮者 佐渡 裕さん**です。歩道橋の事故以降、毎年明石で演奏会を行って下さっています。昨年は、本校吹奏楽部の生徒たちが直接指導を受ける幸運に恵まれました。演奏会の前に、市内の小学校での特別授業をして頂いています。今から5年前の平成26年4月28日、松が丘小学校で聞かせて頂いた時のお話の一部です。

『世界のさまざまな分野で活躍している人には共通している部分がある。才能に恵まれ、努力をし、また運も必要だが、これらは足し算である。しかし、感謝する気持ちがなくては成功しない。感謝力は掛け算であり、感謝する気持ちがなければ半分にもなるし、逆に2倍にも3倍にもなることを覚えておいてほしい。』

先日のキャプテン会でも、部活動における君たちの活躍は、自分自身の努力の賜物ではあるけれども、経済的、時間的にも、保護者をはじめと多くの方々支えがあるからこそであって、そのことへの感謝の気持ちを忘れないでほしいという話をしました。

もう一人は**プロゴルファー 古市 忠夫さん**です。兵庫県副読本「心きらめく(小学校3・4年版)」でも紹介されています。阪神・淡路大震災で神戸市長田区の自宅・店舗とも焼失した後に、60歳でプロテストに合格し映画「ありがとう」のモデルになった方です。

『何といっても「感謝」でしょうね。ここを訪れる修学旅行生に対していつも話すのですが、「才能・努力・運」が奇蹟を起こす方程式と言われてます。でも、私は「運」を除いて、「才能×努力×感謝力」と伝えています。いくら「才能」に恵まれていても、いくら「努力」を続けても、「感謝力」が「1」以下なら全体が減ってしまう。逆に「才能」に恵まれなくても、「努力」することが困難でも、「感謝力」が「10」あれば全体が増える。』

(兵庫教育 平成26年7月号「随想 人生をかえた一言」より)

古市プロは、テレビのレッスン番組でも同じお話をさらわれていたもので、個人的にはラウンド前や後のゴルフコースへの感謝の挨拶、ミスショットをしても決して道具のせいにはしない等心がけるようにしています。おかげさまで昨年度の目標スコアはクリアすることができました。